上野　友子　武石　恵美子　著

『女性自衛官－キャリア、自分らしさと任務遂行』

（光文社新書、2022 年 3 月、261 頁）

武石　恵美子

子どもをもつ幹部女性自衛官の語りを通じて、彼女たちの仕事（自衛官としての任務）への想い、仕事と子育ての両立や職場でぶつかる様々な壁や葛藤にどのように向き合ったのかを考えたい、というのが本書を出版した動機である。自衛官という特殊な世界で働く特別な女性の話、ではなく、圧倒的な男性社会の中で働く女性の語りを通じて、日本社会で働く女性に共通する課題を鋭角的に取り上げることができるのではないかと考えた。

自衛官に占める女性比率は 7.9%、「3 佐」以上のいわゆる「幹部自衛官」に占める女性比率は 4.2%と、圧倒的に男性が多いのが自衛隊組織である。国防や災害支援という仕事の特性から、男性が多数を占める組織であることは今後も続いていくだろう。そのような「超男性社会」の中で、女性自衛官のキャリアがどのように形成されてきたのか、が大きなテーマである。本書では、二つのキーワードを設定した。

一つ目が「自分らしさ」である。男性が圧倒的多数である自衛官という仕事を選んだ女性たちは、仕事選びの時点で主体的な自己決定がなされている点に大きな特徴がある。時には周囲の反対を受けながらも、自衛官の仕事に強い意義を見出し、自ら自衛官の道を選んでいる。職業選択において「ありたい自分」を見据えて「自分らしく」働ける場として自衛官の仕事を積極的に選んでいる。この自己決定の強さが自衛官としてのキャリア形成の基盤となっている。

自衛官としての仕事をスタートすると（防衛大学への入学が自衛官としてのスタートというケースも少なくない）、自衛官としての「国を守る」「命を守る」という任務のために、時には家族を顧みることすら難しい状況になる。この自衛官としての「任務遂行」が二つ目のキーワードである。

ありたい自分をイメージして仕事選びを自己決定しながら、規律性が高い（すなわち、個人の裁量の程度が低いと考えられる）自衛隊の中での任務を遂行する女性自衛官が、「自分らしさ＝私の部分」と「任務遂行＝公の部分」の調和をどのように図ったのか、というのが、本書の問題意識である。このテーマ設定は、近年注目されてきている「キャリア自律支援」、すなわち個人が望む「自律的なキャリア形成」を組織の中でどのように実現させるのか、を考えるという点で、男女共通のテーマにもつながると考えた。

結論を簡潔に言うなら、女性自衛官たちは、自衛官としての任務の意義を、経験を通じて咀嚼し自分の中に落とし込み、「達成感、使命感、責任感」といったものがキャリア意識を支えている、ということになる。自衛官としての任務遂行が自分らしい生き方と重なっていると言える。しかし、日々の生活の中では子育てとの葛藤、男性社会の中での不条理さなど、様々な壁が立ちはだかり、それを乗り越え、時には壊してきた厳しい現実もある。女性自衛官の語りには説得力があり、元気をもらえる言葉が多い。

（たけいし　えみこ　法政大学教授）